

# 図書館だより

No.33 (H30.No.11)

2019年1月8日

## ◇12月の学年別貸出冊数

学年	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
貸出冊数	243冊	363冊	189冊	144冊	99冊	18冊

総貸出冊数 1163冊

## ◇開館スケジュール

原則、毎日開館です。閉館日は日・祝日です。(1～3、5、6、13、14、20、26、27)



※また26日(土)は、推薦入試のため閉館ですのでご注意ください。

## ◇特別貸出について

…冬期休業前に特別貸出をした本の返却期限は、1月9日(水)です。忘れずに返却をお願いします！

## ◇お知らせ

	<p>《雑誌リサイクルについて》 期間：1月10日(木)～12日(土) 保管期間が過ぎて古くなった雑誌を差上げます。 (non-no, ニュートン, オレンジページ, アニメージュなど…) 期間中、資料室に置いておくのでご自由にどうぞ！</p>	
--	--	--

	<p>高3生に対する貸出は、原則12月25日をもって終了しました。 最終返却日は<u>1月9日(水)</u>となっていますので、返却をお願いします。 なお、受験対策や進学先の課題図書等で貸し出しが必要な場合は 対応しますので、どうぞ司書までご相談ください。</p> <p>読書スタンプラリーは12月21日で終了しました。 用紙回収の受付は1月11日(金)までです。参加した方は館内カウンターのボックスに、忘れずに用紙を提出してください。</p>	
---	--	---

## ◇新着案内

今月は新着図書が139冊入りました。教室掲示の新着案内と館内入口の新着本コーナーをご確認下さい。

### 新着図書ピックアップ

- ◎『ロシアンブルー先生に教わる美しいしぐさとマニャー』 監修 岩下宣子 イラスト 竹脇麻衣 (385イ)  
この本は猫たちと一緒に本気でマナー(※猫語ではマニャーといいます)を学ぶ本です。  
人間も猫を見習って美しく生きれば、もっと好印象になります。普段の振る舞いから冠婚葬祭の事までロシアンブルー先生に教わりましょう！
- ◎『英単語の語源図鑑』 清水健二・すずきひろし (834シ)  
英単語最速の覚え方は「語源学習にあり」。  
旧来の単語帳・単語カードの「丸暗記」はナンセンス！と、現役高校教師は云う。とにかく面白いし、自分用としても欲しくなる一冊だと思います。これで長文読解も怖くない！！
- ◎『幻の動物とその生息地』 J.K. ローリング (933ロ-1)  
映画「ファンタスティック・ビースト」の原作で、「ハリー・ポッター」の中では魔法動物学の教科書として登場している本です。パラパラめくるだけで物語の世界に誘われます。  
『クィディッチ今昔』『吟遊詩人ビードルの物語』も新着本で入りました。シリーズのファンはぜひ！

## ☆図書館を活用しましょう 第8回 (図書館を活用しようIV)

### ◆《ブラウジングという究極の図書館活用》

「人間は歩く情報動物である。」人間は歩く動物であり、見る動物であり、そして考える動物だといいます。そして、これらをその目的意識に照らせば、結局、人間とは情報動物といえることができるのです。

なんとなく図書館のフロアをぶらぶらと歩き回ったり、棚を気の向くままに見てまわったりといった経験がないでしょうか。こうしたことを一部の図書館関係者の中で「ぶらぶらブラウジング」とよんでいます。

岐阜市立図書館・分館 ビジネス支援担当 里見 幸子さんがネットのコラムに

図書館でのブラウジングとは？の中で「考えがうまく前に進まなくなったり、「何か足りないな」と行き詰ったりしたときは、ヒントになるものを求めて、なんとなく図書館のフロアをぶらぶらと歩き回ったり、棚を気の向くままに見てみることで」打開する場合がありますといったことを書かれていました。

また、「図書館内を歩くことで思考を落ち着かせ、本（のタイトル）を目で見て神経に刺激を与え、関連するけれど少し違った視点で問題を見る余裕を与えてくれる」アプローチになるのでは…？とブラウジングを勧めていました。

いつものように今回も奥野宣之『図書館超活用術』（朝日新聞出版）を参考にしました。

### ○ぶらぶらブラウジング：場としての図書館の究極の活用法

「ブラウジング」とは、元々はコンピュータ用語ブラウザ(Web ブラウザ、Google や Internet Explorer が代表的) から派生した言葉のようですが、図書館でブラウジング【browsing】(情報を閲覧すること、拾い読みをすること) と言えば、「本棚を漫然と眺めて、気になる本があれば取り出して読む」という行為のことを言います。

こうした行為は、探究などの課題解決型学習や作文を書くとき、○「テーマが決まって」関係資料を図書館などで探している場合。○「テーマが決まらず」テーマのヒントを図書館などで探している場合。◎学習場面とは直結しないが、図書館や書店で行われる（語の意味としては本来の漫然とした）ブラウジングの場合があると思います。

図書館でのブラウジングは、一見するとただの暇つぶしのようにも思えますが、実は思いがけない発見につながったり、物事が進まなくなったり、壁に当たったりした時など煮詰まっている物事の解決に役立つ有意義な時間といってもいいでしょう。

歩き回ると様々な情報が目に飛び込んできます。求めていると自覚している情報だけではなく求めているとは自覚していない情報にも出会うことができます。その結果、視野を広げ、いろいろなことを考えられるのではないのでしょうか。

人間の視覚の不思議さは、意識して読んでいることば以外に無意識にとらえている(眼に入ってくる)情報(=言葉)を蓄積していることです。それらが、(もちろん必ずしも保障するものではないですが、)潜在意識化にある自己の興味・関心分野を引き出し、自己の課題の発見につながるといったことがあると思います。

ネットは効率的ですが、みんな似たような情報を得がちなのに対して、書架＝「場」に身をゆだね、身体で情報を得る。その中で潜在的に気になっている情報が目につき、独自の発想につながるのではないのでしょうか。また、本棚を歩き回っているうちに何らかのヒントが得られる可能性があるということは、あいまいなまま研究を始められるということです。

「何も思い浮かばない」「何も感じない」といった取りつく島もないテーマでも、棚を眺めているうちにだんだん「とっかかり」ができてくるものです。大事なのは、考えたいことがあるなら、まずそのテーマに応じた「本棚の前に立つこと」です。資料の中で考えることが自分だけの模索へと繋がっていくのです。

また、発想力や思いもなかったような着想を得たり、マンネリ化した発想を切り替えられたりすることもあると思います。アメリカ講座、中3、高1の探究学習といった研究活動にとってブラウジングは重要な過程となるでしょう。

さらには、最近の本の背表紙にある「タイトル」、開いた「目次」、「はじめに」などのキーワードとなることばには、まるでキャッチコピーのようなインパクトのある言葉・表現が多く、言葉のセンスが磨かれ、テーマや章題の言葉選びにも役立つのではないのでしょうか。

☆本校の特色である探究活動において、図書館での「ぶらぶらブラウジング」を試してみましょう。

2016年度「図書館だより」より改稿の上、再掲